

遊戯操法とC・A・Tによる

診断と指導

松本市立松本幼稚園

加藤 清子

(分析) 圧力排除の欲求。対象は友達。攻撃の圧力。源泉は友達。
(図版5の物語) 「ねている」「日曜日の朝お母さんのねている間に起きて遊ぼうと思つて、ソーツと出て行く」「後でお母さんに叱られた」

(分析) 遊びの欲求。攻撃の圧力。源泉は母。

(図版7の物語) 「こわいから走って帰っている」「お友達と遊んで遅くなった」「お母さんに叱られるだろう」。

(分析) 不安の圧力。攻撃の圧力。源泉は母。

(図版11の物語) 「お母さんに叱られて出された」「夜遅くまで遊んだから」「後でお迎えに来てくれて、晩ごはんを食べてねる」

(分析) 罪の圧力。源泉は夜遊び。攻撃の圧力。源泉は母。

(図版12の物語) 「砂場で遊んでいる」「いたずらするから遊んでくれない」「先生に云いつけた」「よい子になってなかく遊ぶ」

(分析) 伝達の欲求。対象は先生。拒否の圧力。源泉は友達。

5. 解釈と診断

右記のように、各図に対する反応を分析した結果を綜合して見ると目立つことは、母親および友人からの攻撃の圧力が非常に強くはたらいっていることである。したがつて、この母親は、本人にとつて「非常にこわいもの」という風に印象づけられ、本人はその強い圧力による欲求不満の状態にあるように思われる。本人の色々な問題行動の原因が恐らく、母親および友人からの圧力による欲求不満の結果によるものと思われる。また本人は母親の愛情を求めており、保母の愛情をも求めていることが、その物語から判る。

1 目的 子どもたちのかくされている心の世界を外面化し、教育の実際に役立てるため、実験方法として遊戯操法とC・A・Tを用い、併せて二つの実験の関連性をも捉えようと試みたのである。

2 被験者 お茶の水女子大学附属幼稚園六才女兒十二名

3 実験期間 遊戯操法 昭和二八年六〜九月

C・A・T 同 二九年二〜三月

4 遊戯操法 (Play Technique) 刺戟の少ない部屋に二枚のござを敷き、大・中・小十数個の人形と、ままと道具類を用意し、つれてきた二人の幼児に二枚のござがそれぞれの家であることを知らせ、自分達の家族数だけの人形を選ばれて、三〇分間ままと遊びをさせた。人形、すなわち家族の人々の活動のさせ方の中に、幼児の外面化されない世界が投影されるだろうという想像は、ほぼ裏切られなかったようである。

図表Iは、実験の結果を処理した一例で、人形の活動のさせ方を示したものである。大部分の子どもが母中心で、母子関係をよく用

図表 I 人形の使い方を五類型にまとめた場合

類型 \ 幼児名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
父母を使う型	○	●				○					○	○
父子関係を使う型			●			○		●				
母子関係を使う型		○	●	●	●	●	●	●	○		●	●
子ども間関係を使う型	○	○	○	●	○		○	●	○			○
自己の関係をを使う型	●						○		●			

いた。つぎに配布した調査用紙などによって家庭の状況を、先生に訊ねて幼稚園の生活をそれぞれまとめ、実験場面の結果の三方面から幼児を考慮したもの一例が、図表Ⅱの(1)・(2)におけるF子とK子の例である。

なお、日常生活では子どもたちは外界のものに動かされやすいが、ここでは自分が指導者となって自分で周囲を変えることが出来るわけで、大きな教育上の意義が考えられる。

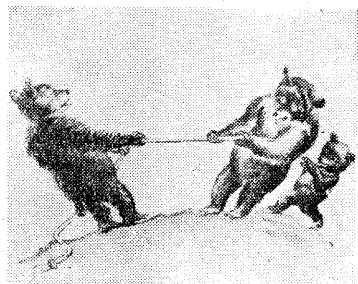
5 C・A・T (Children's Apperception Test)

ベラック (Bellak, I.) の十枚の図版を一枚づつ子どもに見せて、「この絵は今、何をしているところか、この前にはどういうことがあったか」

を語らせるのである。子どもたちは、絵の中の場面に自分の生活を投影してお話をはじめた。図版2の「熊の綱引き」について二人の幼児が語った大略は、

K子「親子三人の熊が山で遊んでいて綱をさがし、綱引きを始めた。綱が余っている方が父で勝つ。父は「よかったよかった」と喜び、母と赤ん坊は「やだわ」という。三人は家へ帰って夕食後母は

(熊の綱引き)



子を寝かす。父は、ホールで新聞をよむ。

F子「父母が家から綱を持って来て三人で綱引きを始めた。お昼頃に父と子の方がようやく勝つ。母は怒ってどこかえいってしまふ。父は、「厭だなあ」という。K子からは、ほほえましい家庭風景がうかがわれるのである。特に自分の赤ちゃん熊と見做しているこ

とは、どこまでも甘えたい気持ちを示している。遊戯療法の家調査によっても明るい家庭で充分甘やかされて育っている、くったくのないう子で、綱引きは家庭のレクリエーションで、父の勝つことも当然のこととして素直に認めている。F子では、一人の方を母と見做したことは特異な例で、綱引きからは、父母の反目が想像されまふ。語られた他の図版にも、母への反感が多く示され、自尊心の強すぎる母を余り好きでないという性格の淋しい子である。

なお、幼児の語った内容は、適宜に改訂附加したベラックの分析表に記入し、診断に用いることにした。一般に Projective Technique は、実験結果の解釈が極めてむずかしく、高度の熟練を必要とするので、私どもは個々の事例の解釈を行うための研究会をつくり、この技能の不充分さを補い、解釈の主観的なることをさげようとした。

6 診断と指導 以上二つの実験からとらえられたものは、

図表Ⅱ

	実験場面に現れた行動・態度	家庭におけるもの	幼稚園におけるもの
(1) F 子	①自分に可愛い人形をあてる ②父の人形より母人形が大きい ③父が台所をする ④母が赤ちゃんを可愛がる ⑤動物を家族のように扱う ⑥遊びに行く・買物に行く・自動車にのる ⑦お誕生日だと仮定する ⑧ものの上で遊ぶ ⑨遊びの中にとけこんでいる ⑩創意がある	①自己中心的・一人でじつとしていることが好き ②母が一ばん好き・家庭の中心は母 ③父が時々おいしいものをつくる・母が病弱 ④赤ちゃんがほしい(本人にきく) ⑤仔犬がほしい(本人にきく) ⑥父母共よく出かける ⑦お誕生日だけに友だちを招く ⑧あとかたづけをよくする ⑨本読み、ピアノなど物事に熱中し興がのると食事に呼んでも返事もしない ⑩人形あそび・ままごとを好む 母が理智的(先生にきく)	さびしい性格 ⑧あとかたづけをよくする・しっかりしている ⑨ものごとに熱中する ⑩しっかりした子・はっきりにしている・創意にとまじめて努力家
(2) K 子	①母が食事の仕度・片付けをよくする・客を手厚くもてなす ②母人形の使い方が非常に家庭的 ③母が赤ちゃんを可愛がる ④動物を家族のように扱う ⑤あとかたづけをよくする ⑥工夫する ⑦遊びの中にとけこんでいる ⑧家庭的で細やか ⑨大人びた仕草をし、人なつこい	①実母は昨年病死し継母であるが子どもを可愛がり家庭にもよくつくす ②家族の中心は母 ③女の子がほしい(本人にきく) ④犬をかいたい(本人にきく) ⑤かたづけを時にマしない ⑥工夫する ⑦人形あそびを好む 時々でためをいう	⑥あそびの集中度は浅い ⑦母が病死したためまわりのものにふびんがられ可愛がられて育ってきたためもあり人なつく大人表情をよみ、ませて調子がいい、大人の世界の一面にふれている

(同番号は各場面の関連を示す)

- (1) 人間関係におけるもの。
 家庭における幼児の位置、つまり、幼児が家族をどうみているか、また、どう扱われているか。
- (2) 要求阻止 (Frustration) の発見
 遊戯療法では、不満の対象の対象の人形を、打つ・投げる・無視 する変な人形をあてる、などによって。
- C・A・Tでは物語の中に要求・不満・反感などを示すことによって。
- (3) 家庭の態
 とくに遊戯療法でとらえられた点。
- (4) 対人関係における行動中に表現される性格並びに能力の一面。
 とくにC・A・Tによってとらえられた点。
- (5) 過去・現在・未来の時間的流れの上からの巾広い診断
 ロ、語られる十枚から一つの傾向の把握。
 ハ、想像力・観察力・表現力などの素質的なもの。
 ニ、子どもの全人間的なもの。
 ホ、適応性の有無。
- (図表Ⅲの(1)・(2)遊戯療法とC・A・Tにおける表出と、その指導を示したものの一例です。)
 これらのことから家庭及び幼稚園における人間関係をどのように調整したらいいかが考えられる。

図表Ⅲ

	遊戯操作と C. A. T に共通して現れたもの	遊戯操作にあらわれたもの	C. A. T にあらわれたもの	
(1) F 子	その他 人間関係のもの おの 開ける 関係 のもの	母は父より優位な位置 本人は性格が淋しい・甘えっ子 交友場面が多い	創意にとむ 物事に熱中する ものしまつが良い 父母が外出好き	父に同情的 母に気に入られようと努力する 自己の優秀性を自覚している
	要求と ラシ ショ ン ブレ	友だちと遊びたい	赤ちゃんがほしい 仔犬をかいたい	家庭で抑圧されるものが、時々攻撃的な形として表現されながらも本人の聰明さのため内攻する
(2) K 子	今 指 導 方 針 後	生活領域にひろがりをもたせたい 交友関係をひろめ、明るくのぼしたい	創意・集中度のふかさ・きまりのよい点などそのままのぼしたい・動物飼育などで愛情と明るさをあたえたい	家庭における抑圧の排除 人間関係の調整
	その他 人間関係のもの おの 開ける 関係 のもの	甘えっ子・自己中心的 大人の歡心をえようとする でためめ・きまぐれ・散漫・くったくない 要領がいい	家庭的で細やか 人に対していねいでやさしい・思いやりがある・大人びた仕事をし人なつこい 工夫する	家庭が明るい ほほえましい表現が多く言葉のもつニュアンスのおもしろさは大きな収穫であった ずるさがある
	要求と ラシ ショ ン ブレ	みとめられたい 愛されたい	女の赤ちゃんがほしい 犬をかいたい	愛されたいとくに 両親をはさんで兄妹間の対立が大きい
今 指 導 方 針 後	正しい態度で子どもを可愛がることの必要性を痛感 でためめを正しく汲みとり情操方面へむけてのぼしたい	ままごと遊びのように本人の集中する素材をあたえて集中力を伸ばしたい		

これらの実験を通して、今まで何気なく看過した子どもたちの遊びを手掛りとして、外に現れない無意識の行動を判断し、日常生活の中で多少によらず押えられている不満や要求を見出し、それを治療し、正しい方向へむけてのぞましい成長をはかることが必要で、これを如何に実際の生活の中に生かすかが今後の関題である。

幼児・児童画統覚検査について

お茶の水女子大 浜田 駒子

私は、いま発表なさいました加藤さんの後をついで、松村康平先生につき、ベラック版 C・A・T について研究した。

これら十枚の絵で果して子どもの性格がとらえられるかどうかという疑問から出発したのである。

C・A・Tを行ったのは、

お茶の水女子大学附属幼稚園六才児 男女一〇名

太田区昭和幼稚園六才児 男女五名

同 外人児童でありました。

絵画統覚検査については先程 R・C・A・T を発表なさった方がくわしくお話なさいましたので、省略させて頂きたい。ここでは上記の結果からベラック版 C・A・T の限界(短所)をスライドをみながら簡単に説明申し上げることにしたい。

①まず、練習版のないこと。

②絵の書き方がリアルでヒヨコをカエル・カラス等と見ており、図版の意図にそわない。

第1図版